

平成 23 年 5 月 24 日

長岡市教育委員会（定例会）会議録

長岡市教育委員会

1 日 時 平成 23 年 5 月 24 日 (火曜日)

午後 4 時 00 分から午後 5 時 00 分まで

2 場 所 中央図書館講座室 1

3 出席委員

委員長 大橋 岑生 委 員 内藤 博子 委 員 羽賀 友信

委 員 中村 美和 教育長 加藤 孝博

4 職務のため出席した者

教育部長 大滝 靖 子育て支援部長 矢沢 康子

教育総務課長 若月 和浩 教育施設課長補佐 山口 克彦

学務課長 武樋 正隆 学校教育課長 小野田信子

子ども家庭課長 佐藤 正高 保育課長 佐野 勉

中央公民館長 鈴木 昇 中央図書館長 小倉 進

科学博物館長 山屋 茂人 学校教育課主幹兼管理指導主事 関谷 祐二

学校教育課主幹兼管理指導主事 山田 修 学校教育課主幹兼管理指導主事 大矢 慎一

5 事務のため出席した者

教育総務課長補佐 栗林 洋子 教育総務課庶務係長 新沢 達史

教育総務課庶務係 小柳 亮介

6 議事日程

日程	議案番号	案 件
1		会議録署名委員について
2	第 26 号	補正予算の要求について
3	第 27 号	専決処理について（補正予算の要求について）

7 会議の経過

（大橋委員長） これより教育委員会 5 月定例会を開会する。

日程第 1 会議録署名委員について

（大橋委員長） 日程第 1 会議録署名委員の指名を行う。会議録署名委員については、会議規則第 44 条第 2 項の規定により、羽賀委員及び中村委員を指名する。

日程第 2 議案第 26 号 補正予算の要求について

（大橋委員長） 日程第 2 議案第 26 号 補正予算の要求について を議題とする。
事務局の説明を求める。

（小倉中央図書館長） [議案書により説明]

（大橋委員長） 質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長） なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり決定することに異議ないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

（大橋委員長） 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり決定した。

日程第 3 議案第 27 号 専決処理について（補正予算の要求について）

（大橋委員長） 日程第 3 議案第 27 号 専決処理について 補正予算の要求について を議題とする。事務局の説明を求める。

(若月教育総務課長) 専決処理について説明する。これは東日本大震災で被災して長岡市に避難して来られた方に関連して、長岡市全体で5月1日に専決処理を行ったため、承認を求めるものである。教育総務課から順次説明する。教育総務課については、長岡市に避難して来られている方の中で、職がない方を対象に緊急雇用制度を用いて、学校管理員の補助業務をする職員として雇用するものである。勤務する学校は避難先の避難所から一番近い学校を考えている。パートで8人を雇用する予定である。これに係る経費である歳出は臨時職員賃金、消耗品費及び旅費等で938万円である。これらについて、県から雇用創出事業特例基金補助金934万円、雇用保険料被保険者負担分4万円、合わせて938万円の歳入がある。歳出・歳入額については同額である。

(武樋学務課長) 学務課について説明する。東日本大震災の被災者支援として、長岡市に避難している児童生徒の就学支援にかかる経費を計上するものである。現在94人の避難児童生徒がいる。1つ目の民生費の災害救助費については、児童生徒の文具類や体操着及び鞆といった学用品や副教材にかかる経費である。2つ目の教育総務費の教育諸費の遠距離通学児童生徒支援事業費である。現在避難所から一番近い学校で児童の受け入れを基本としているが、公的住宅を斡旋したことにより、今まで通っていた学校から住居が遠くなる。それでも慣れ親しんだ今までの学校に通いたいといった場合に通学距離が遠くなるので、ガソリン代を支給する形を考えている。3つ目の小学校費の学校管理費、学校保健管理費について、避難児童の日本スポーツ振興センターにかかる経費で、市の持ち出し分の負担金である。また児童・教職員健康管理費であるが、内科検診、歯科検診といった様々な検診にかかる手数料である。4つ目の小学校費の教育振興費の就学援助・奨励費補助事業費であるが、学校給食費や修学旅行費などといった就学援助にかかるものとしての経費である。5つ目以降は中学校費になるので小学校費で説明したものと同様である。最後に歳入については0であるが、災害に伴う一時補正ということで国の補正予算が成立しており、その中で就学支援に係るものの経費については就学支援臨時特例交付金を設け、各都道府県が基金を作り、その基金を活用して就学支援をしている市町村に交付金を交付する仕組みになった。原則として全額財源がくるということになっている。5月1日の専決予算の時点では詳細が分からなかったため、歳入額0

となっているがいずれ財源が来る予定である。

(佐藤子ども家庭課長) 子ども家庭課について説明する。いずれも東日本大震災にかかる5月分と6月分の経費である。1つ目の母子保健事業費の妊婦健康診査費委託料等については、内訳として妊婦健診19件、4か月検診1件を見込んで131,000円である。二つ目の予防接種事業費の麻しん風しん混合接種手数料等について、内訳として麻しん風しん4件、三種混合を6件、BCGを2件を見込んで9万円である。母子保健と予防接種の要求の考え方であるが、本来他の市町村に住んでいる方で長岡に様々な事情で来る場合、例えば、妊婦健診であれば里帰り出産のために長岡に来て妊婦健診を受ける場合の助成というものは、住民票がある本来の市町村がするものである。妊婦自身が本来の市町村と連絡を取って助成を受けるというのが一般的な方法だが、今回震災ということで本来の市町村が大きな災害を被って役場の機能が麻痺しているような場合がある。その場合、避難先の長岡市が対応して助成をしていく。具体的には長岡市には南相馬市の避難者が大勢いるが、南相馬市の役場の機能として、母子保健機能は回復しているので、南相馬市に長岡市負担分を請求することになる。今回は、浪江町、大熊町、双葉町といった母子保健機能が回復していないところへの長岡市の対応として予算計上したものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 教育総務課の歳入の県の補助金についての財源の入り方について、学務課も同様の考え方でよろしいということでもよろしくお願いしたい。

(羽賀委員) 教育総務課の管理員補助パートの雇用期間はどのくらいか。

(若月教育総務課長) これまでの緊急雇用事業では、はじめは半年で雇用し、1回だけ延長の更新ができる。

(大橋委員長) 学務課の説明にあった94人の避難児童生徒がいることについてであるが、人数は当初よりも減ってきているのか。

(武樋学務課長) 当初では91人であった。避難所から地元に戻る人もいれば、被災地からこちらに避難してくる人もいるので、人数としてはあまり変動がない。

(中村委員) 教育総務課の管理員補助のパートの募集についてはいつ行うのか。

(若月教育総務課長) 5月の専決処理後、すぐに募集をした。第1回の募集としては応募が1名だけあり、その人については採用が決まっている。随時募集を行って

いるので、その都度採用試験を行う。

(内藤委員) 雇用される年齢についてはどのようになっているのか。

(若月教育総務課長) 年齢については、制限は設けていないので、どなたが来られても構わない。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) なしと認める。では、これより採決に移る。本件は原案のとおり承認することに異議はないか。

[「異議なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 異議なしと認める。よって本件は原案のとおり承認した。

(大橋委員長) 本日の日程は終了する。次に協議報告に入る。まず、平成 22 年度教育に関する事務の管理及び執行の点検及び評価報告書について、事務局から説明を求める。

(若月教育総務課長) 地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 27 条の規定により、学識経験者の知見を活用しながら教育委員会の事務の管理及び執行の点検及び評価をすることになっている。今年度も昨年度と同様に行いたいものである。点検・評価の項目については変更ない。点検・評価のスケジュールについて、すでに教育委員会内部で昨年度の事務について自己点検・評価を行ったところで、明日 5 月 25 日に第 1 回事務評価委員会を開催し、その内容について事務評価委員に説明する予定である。7 月上旬に第 2 回事務評価委員会を開催する。その際、昨年度と同様に教育委員の方々から出席いただき、事務評価委員と意見交換をお願いする。7 月下旬から 8 月上旬に第 3 回事務評価委員会を開催して報告書を作成し、8 月定例会に報告書の議決を行い、それを 9 月市議会に報告するものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 事務評価委員は昨年度の方々から変更はあるか。

(若月教育総務課長) 事務評価委員は昨年度から 4 人の方をお願いしているが、任期が 2 年であり、今年度は 2 年目にあたる。そのため変更なしである。

(大橋委員長) 教育委員は7月上旬の第2回事務評価委員会に出席し、事務評価委員とそれぞれの立場で意見交換をするということによろしく願いたい。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 質疑、意見なしと認める。次に、長岡市予防接種事故災害補償規程の一部改正について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 平成23年4月1日の「全国市長会予防接種事故賠償補償保険特約書」の一部改正に伴い、「長岡市予防接種事故災害補償規程」を一部改正するものである。予防接種事故のリスクはゼロではないため、予防接種事故が発生した場合の賠償補償が必要となったときに備えて、長岡市として全国市長会の保険に加入している。これに伴い長岡市で規程を定めている。今回、全国市長会の定める補償金額が引き下げられたということで、長岡市もこれに合わせて改正するものである。具体的には死亡補償保険金が42,800,000円から42,700,000円、障害補償保険金1級が42,800,000円から42,700,000円、障害補償保険金2級が28,499,000円から28,433,000円、障害補償保険金3級が21,756,000円から21,706,000円に引き下げである。適用日は平成23年4月1日以降に発見された事故からである。補償金額引き下げの背景としては、同日の平成23年4月1日に障害基礎年金の金額が引き下げられたことによるものである。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) これまでに適用されたことはあるか。

(佐藤子ども家庭課長) 長岡市では10年以上前にあった。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 他にないようなので、次に、平成23年度長岡市成人式について、事務局の説明を求める。

(佐藤子ども家庭課長) 5月3日に開催した長岡、越路、小国、栃尾、川口地域の成人式について報告する。教育委員の方々に各会場に出席いただいた。当日は良い天候に恵まれ、各会場に大勢の新成人が出席した。出席状況については、合計1,829人ということで去年と比べて若干増加したが、毎年変動があるものである。今後の

実施予定については、8月14日に山古志地域、8月15日に与板、和島、中之島、三島、寺泊地域である。この両日についても教育委員の方々から都合がつけば出席いただき、開式宣言や閉式宣言をお願いしたい。

(大橋委員長) 質疑、意見はないか。

(大橋委員長) 今回はそれぞれの会場に委員の方々が参加したわけであるが、どのような様子であったか順番に説明をお願いする。

(内藤委員) 私は栃尾地域に参加した。とてもアットホームであった。副市長の励ましの言葉があり、市議会議員のお祝いの言葉、新成人の誓いの言葉で終わった。式の前に写真撮影があり、新成人50人ぐらいと一緒に撮るのだが、新成人の母親たちが一斉にカメラマンとなり、その光景がとてもすごいと思った。私は一番前列に座ることになり、一緒に写真を撮らせていただいた。

(中村委員) 私は越路地域に参加した。会場が体育館であったので新成人がすぐ目の前で座っていて、座席を多めに用意したとのことであったが、ほぼ満席ということでびっくりした。市長が挨拶をされた。私は主催者側であるのだが、来賓席に座るように指示があり座らせていただいた。式は20分程度で終了した。

(羽賀委員) 私は栃尾地域に参加した。市長、県会議員が挨拶された。私は紹介を受けて、中村委員と同じで主催者側で来賓席に座らせていただいた。式の後全員で写真撮影をして終了した。

(加藤教育長) 私は川口地域に参加した。私は主催者の席に座っていて、隣には副市長が座っていた。来賓席には市議会議員、地域委員が座っていた。副市長と市議会議員の祝辞があり、新成人の誓いとお礼の言葉があった。それから外へ出て写真撮影をして終了した。

(大橋委員長) 私は長岡地域に参加した。私が開式宣言をした。市長の挨拶があり、保育園による太鼓、各学校の先生のメッセージ等、とても良い感じで1時間が過ぎて終了した。

(大橋委員長) 他に質疑、意見はないか。

[「なし」と呼ぶ者あり]

(大橋委員長) 他に協議報告はないか。これをもって協議報告事項を終了する。

(大橋委員長) 本日は、定例会の前に宮内保育園、前川小学校、みゆき牧場を訪問した。委員の方々からの意見、感想はいかがか。あれば宮内保育園から願います。

(中村委員) 宮内保育園の中に子育て支援センターがあり、保育園の2階を開放して、毎週月曜日から金曜日の8時から12時30分、15時から16時までやっていて利用者に大変喜ばれており、1日に7、8組の親子が来るということで年間を通してかなりの人数になるとのことであった。地域特性的に核家族が多いそうで、若い母親が園長先生を自分の母親のように慕ってすごく活用されている様子が見えてよかった。

(内藤委員) 4月に市外に引っ越したが、宮内保育園の子育て支援センターが大変良くて、今も毎日通っている母親がいるという園長先生の話聞きながら、本当にそうだろうと思った。母親たちも安心して相談やお願いができるというとても暖かい感じを受けた。移動子育てランドを行いとても幅広くやっていることや、入園時になってもこのような場所を知らなかったという方が多いので、これからもっと周知していきたいと園長先生は話していた。

(大橋委員長) 宮内保育園の子育て支援センターが平成7年に建ち上がっていることに驚いた。市内34園でこのような施設はあるそうだが、その中で最も早いそうである。宮内地域は非常に熱心なところだと感じていたが納得した。子育て支援センターが保育園と一緒にいることを知らなかったのもこれにも驚いた。また、それに関わる方が母子保健推進員の方とのことで、保育士だけではないとのことだった。長岡市がここまで発展しているという印象を持った。

(羽賀委員) 宮内保育園の話聞いていてよくできていると思ったのが、核家族80%で集合住宅居住者が3分の1であることや、一過性でお金を貯めてよそに行く若い人がいるといった、地域特性を把握していることである。特性的に人とのつながりが非常に難しいが、宮内保育園が良い形で信頼と安心のコアになっているのかと思う。内藤委員の話でもあったように、市外に引っ越しても長岡に通いに戻って来るということは、長岡市にとってプラスになる素晴らしい運営だと思った。

(加藤教育長) 建物が古いので改築の必要があるかと思うが、現在建設中の宮内中学校の計画の際、一緒に建替えようと考えたがうまくいかなかった。駐車場もないため、先々を考えて計画を立てていかなければと思う。

(大橋委員長) 続いて前川小学校の意見、感想はいかがか。

(中村委員) 前川小学校は小規模校で、2年生と3年生が複式学級になっていた。今年から初めてということである。その複式学級の授業を見たが、担任の先生が1人、補助の先生が1人それぞれ入っていて、2年生と3年生は教室が別々で授業をしていた。担任の先生と補助の先生が入れ替わりという形であるが、これは担任の先生と補助の先生が連携をしていかないと授業がスムーズにいかないのであろうと思った。そういう面ではうまくいっていたと思う。ただ人数が少ない分、先生の声の出し方や生徒への目配りなど、もっと授業にメリハリをつけた方がいいと感じた。また、花いっぱい活動を熱心に取り組んでいて、先生も生徒も長靴を常駐しているほどの入れ込みで、地域の方も学校の種植えに協力していて皆が一体となっていてよいと思った。

(内藤委員) 一番の印象として、懇談の際の職員の雰囲気に対し違和感があった。

(大橋委員長) 複式学級が今年から始まったが、私は無理があるのではないかと考えていた。国語についてはAプランとBプランでそれぞれ計画を考えているそうである。しかし、それ以外の教科は考えていないとのことだった。また、前川小学校の教育計画を全て読んだが、複式教育について触れられていなかった。今回も個別の授業に入ったため、複式という場面は一切なかった。今の複式学級は学年が上がっても続いていくという話なので、今後指導する必要があるのではないかと感じた。

(羽賀委員) 授業に緊張感がない。良い意味で言えば家庭的で悪い意味で言えば学校的でない。もう少し緊張感がある方が子供も学ぶと思うが、子供はマイペースで授業をしている印象を受けた。小規模校の一つの課題は、訪問の中で言われた加藤教育長の「最初から分かっているものは本音で出すものとは別にする」という言葉で、私もそう思う。小規模校の複式学級や少人数学級の時、どうやって子供たちの多様性を引き出すかという課題を授業の中に盛り込んでいかないと、これからだんだん大人しい子供だけが空気を読んで、物を言わなくなってしまう、序列化が固定していくような流れを助長すると思い、危機感を感じた。

(加藤教育長) 2年生と3年生の複式学級の授業を見たが、補助の先生がいる教室の方は補助の先生がいるだけで指導をしていない。担任の先生と補助の先生との授業の内容をもう少し考えないといけないのではないかと感じた。また、図書室に案内された

際、図書館の本の貸出の表示の日付が以前のままであった。先生の目が届く範囲の
はずであるので、きちんと指導をする体制を作らなければならない。

(大橋委員長) 最後にみゆき牧場の意見、感想はいかがか。

(中村委員) みゆき牧場は初めて訪問した。食物の循環の仕組みをやっているとい
うことで、実際に搬入された残飯を再生処理するところを見た。給食残さの全体の
2割は残飯で8割は野菜から出るクズや皮ということ聞いて、勉強になった。とて
も親切な説明で分かりやすく、なかなか出来ない体験をさせてもらった。自分の子
供たちにも伝えたい。

(内藤委員) みゆき牧場のような施設は初めてで、身を乗り出すようにして見た。
その中で匂いが無いというのを感じた。乾燥しているところは香ばしかった。給食
の残飯からできる飼料は、家畜にとってとてもおいしい煎餅のようなものだと思っ
た。説明してくれた二人はとてもこの事業が大好きというくらい愛していて、もっ
ともっと聞きたいと思うくらい引き込まれた。面白い話もたくさんしてくれ、大切
なところはきちんと大切ということ教えてくれた。こういった取組みが学校に掲示
してあったので、それを現場で見ることができて本当によかった。

(大橋委員長) 私も初めて訪問した。説明してくれた方は大変力量を持っていてさ
すがだと感じた。その方の話にとっても引き込まれて、良い体験をさせてもらった。

(羽賀委員) とても感動した。みゆき牧場は長岡の誇りの一つだと思うし、子供た
ちにとっても実例として非常に良い教育材料だと思う。これを私たちがいかに大事
に思いながら、できない理由を考えるのではなく、どうしたらできるかという方向
で協力していくことが、これから大事になるのではないかと思う。

(加藤教育長) 私は各学校で食育を進めるにあたって、最初のみゆき牧場の人を講
師として呼んでもらいたい。みゆき牧場の取組みを知らないで、食育の取組みをす
るのはどうかと思ってしまうからだ。食育でこの循環ネットワークを長岡の取組み
としてやっていることを教えると同時に、未来の納税者を育てる租税教育をセット
できちんと教えることについて、長岡市もある程度こういったことをしなければと
思った。

(大橋委員長) これをもって本日の定例会を終了する。

会議の次第を記載し、その相違ないことを証するために署名する。

長岡市教育委員会委員長

長岡市教育委員会委員

長岡市教育委員会委員